



平成19年12月19日

各位

会社名 旭硝子株式会社
 代表者名 代表取締役社長執行役員 門松正宏
 (コード番号 5201 東証第1部)
 問合せ先 広報・IR室長 川上真一
 (TEL. 03 - 3218 - 5509)

業績予想(連結)の修正に関するお知らせ

平成19年度12月期(平成19年1月1日~平成19年12月31日)の業績予想について、平成19年10月31日に公表しました連結業績予想を、下記の通り修正しますので、お知らせします。

記

1. 19年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成19年1月1日~平成19年12月31日)
 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年10月31日発表)	1,670,000	180,000	170,000	90,000
今回修正予想(B)	1,670,000	192,000	182,000	60,000
増減額(B-A)	0	12,000	12,000	30,000
増減率	0.0	6.7	7.1	33.3
前期(平成18年12月期実績)	1,620,540	136,611	134,498	44,997

2. 修正の理由(連結)

ガラス事業は、欧州の板ガラス市況がロシアなど新興市場を中心に好調に推移したことから、当初予想を上回る業績となる見通しです。電子・ディスプレイ事業は、中小型ディスプレイにおいて携帯電話向け製品の価格が下落しているものの、液晶用ガラス基板の販売が堅調であったことや、ブラウン管用ガラスの生産設備削減に伴う構造改善効果もあり、当初予想を上回る業績となる見込みです。

以上の結果、売上高は当初予想から変更はありませんが、営業利益及び経常利益は当初予想を上回る見通しです。

一方、平成19年度第4四半期において、欧州自動車ガラス事業における生産設備等の固定資産減損、当社子会社で硼珪酸ガラス等を製造・販売しているAGCテクノグラス株式会社の中山工場(本社・工場)からの事業撤退に伴う構造改善及び固定資産減損、並びに欧州における板ガラス及び自動車ガラスの独禁法違反の疑いに関する課徴金の引当等により、約780億円の特別損失を計上する見込みとなりました。

欧州自動車ガラス事業については、収益が低迷していることから、生産設備等の固定資産減損（損失額：約165億円）を行うこととしました。

AGCテクノグラス社については、平成20年12月までに中山工場から一部を除き事業撤退することとしており、構造改善費用及び固定資産減損損失として約120億円を計上することとなりました。

欧州における板ガラスの独禁法違反の疑いについては、欧州委員会は平成19年11月28日付で、当社子会社であるAGCフラットガラス・ヨーロッパ社（以下、AFEUという。）及び当社に対し、課徴金の支払いを命ずる決定を通知しました。また、欧州における自動車ガラスの独禁法違反の疑いについては、欧州委員会は平成19年4月18日付で、当社子会社であるAGCオートモーティブ・ヨーロッパ社、AFEU及び当社に対し、異議告知書を発行し、調査を継続しています。これらを受け、当社は、課徴金支払いの将来的リスクを、損失（200百万ユーロ。約325億円）として引き当てることとしました。なお、引当額は、欧州委員会から受領した板ガラスの課徴金支払いを命ずる決定の内容及び欧州委員会の課徴金算定ガイドラインを参考に、板ガラス及び自動車ガラスのそれぞれの売上規模、対象製品、対象期間、課徴金減免申請などを総合的に勘案し、必要とされる金額を合理的に推計したものです。

以上の結果、当期純利益は当初予想を下回る見通しです。

（補足資料）

事業セグメント別業績見込み（連結）

平成19年12月期通期

（単位：億円）

事業セグメント	売上高			営業利益		
	前回発表予想	今回発表予想	増減	前回発表予想	今回発表予想	増減
ガラス	8,600	8,600	0	610	660	50
電子・ディスプレイ	4,600	4,600	0	1,040	1,120	80
化学	3,200	3,200	0	130	120	10
その他	850	850	0	20	20	0
消去	550	550	0	0	0	0
合計	16,700	16,700	0	1,800	1,920	120

以上